



発行：熊谷市立江南文化財センター

TOPICS

日本最大級の岩版が出土！！

上北浦遺跡は、市内江波に所在し、令和3年4月から6月にかけて実施した発掘調査で縄文時代晩期中ごろの岩版が出土しました。

岩版とは、約3千年前ごろから始まる縄文時代晩期に、東北地方から関東地方を中心に作られた、板状の軟らかい凝灰質泥岩に文様を彫り込んだ遺物で、護符（お守り）として使用されたと考えられています。

熊谷市内では上之の諏訪木遺跡で出土した2点に続いて3例目となりますが、本例が注目されるのはその大きさです。全体の3分の1ほどを欠損しているものの、復元した大きさは長さ約20cm、幅約14cmで、これは埼玉県内で出土した岩版の中では最大で、岩版が多数出土している群馬県や栃木県のものと比較しても、最大の部類に入ります。（山川守）



上北浦遺跡の岩版（表面）
おもてめん

国選定保存技術保持者認定—花輪滋實氏—

国の文化審議会は、熊谷市在住の木工・漆工の技術者である花輪滋實氏を、国の選定保存技術保持者に認定するよう、文部科学大臣に答申し、その後、同年11月28日付けの官報告示で正式に認定されました。また、熊谷市教育委員会は、答申後の7月28日に記念報告会「花輪滋實の世界」を開催しました。

花輪氏は家業の仏具製作を引き継ぎ、1982年に花輪ろくろ工房を開設。日本工芸会の正会員として美術工芸品の製作を進め、全国的な評価を高めました。そして、90年代から、その技術を生かし、国指定重要文化財などの掛軸や巻物の保存修理にも力を注いできました。

今回選定された「表具用木製軸首製作」技術は、ろくろ（回転を生かした削り器）により木製の軸首を加工し、その表面に漆塗りを行う技法で、その高度な技術力が評価されました。この「軸首」とは、掛軸下部の左右の先端に付けられる円筒形の部材であり、絵画や古文書の掛物や巻物を開閉する際に手を添える箇所を指し、「軸先」とも呼ばれています。今後は国庫補助金による保存技術の継承事業などが行われる予定です。（山下）



軸首製作中の花輪滋實氏

源宗寺「平戸の大仏」から建立年・制作者の墨書を発見！！

現在、市内平戸の源宗寺本堂の改修事業と併せて、熊谷市指定文化財「木彫大仏坐像」（平戸の大仏：おおほとけ）の二体「薬師如来坐像」及び「観世音菩薩」の保存修理事業が行われています。同委員会が吉備文化財修復所に委託し調査を実施したところ、10月、薬師如来坐像頭部（左写真）の内部から、仏像の建立に関する墨書（右写真：吉備文化財修復所提供）が発見されました。墨書には、「寛文三年 卯 八月廿五日（二十五日）江戸 佛師 松田庄兵衛正重」などと記されており、同仏像の建立年・制作者を知る貴重な資料となりました。仏像の保存修理は本堂落成の令和3年12月後以降も継続し、併せて調査研究を進める予定です。（山下）



市内遺跡発掘情報

上之土地区画整理地内遺跡の発掘調査

市内上之では土地区画整理事業を進めるにあたり、事前に発掘調査を行っています。今回は、令和3年4月から8月まで実施した前中西遺跡の調査についてご紹介します。

令和3年度最初に調査を実施した地点は、本遺跡範囲北西部に位置し、昨年度1月から3月まで実施した調査地点の南東側に隣接します。調査の結果、前回と同じく弥生時代の竪穴住居跡や古墳時代後期の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡などが多数見つかりました。このうち、古墳時代後期の溝跡からは、大量の土師器や須恵器が出土し、そのほとんどが完形品であったことから、これらは廃棄されたものではなく、何かしらのお祭りを行った際に使用されたものと考えられます。(松田)



古墳時代後期の溝跡から出土した完形の須恵器

池上遺跡の調査報告

今年度の池上遺跡の発掘調査は、国道125号と国道17号バイパスが交差する南東角地を調査していて、これまでに弥生時代中期(紀元前1世紀ごろ)の方形周溝墓を検出し、周溝端部からは、完形に近い弥生土器壺が出土しています。

また、本調査箇所的大部分が旧河川跡で、川幅は30m程度であり、荒川の旧支流と考えられます。河川跡からは4m以上の長さの大型木材や、機織り機の部材、火おこし用の板(火鑽臼)、荷札または木簡と思われる板材、槽(祭具)、扉部材などの建材などの木製品が多数、土師器、須恵器などの土器も出土しています。

この河川は、古墳時代前期ごろ(4世紀)から機能していて、平安時代の終わり頃(11世紀ごろ)には流れが無くなっていったようです。特に平安時代になると、水量が減少したと考えられ、川が干上がらないよう願って水辺で祭祀を行っていたことが、出土した遺物等から垣間見ることができます。さらに、祭祀に使われたと推定される井戸跡や、その周辺で確認された土器片なども、祭祀に使用されたものと考えられ、また、同じ場所に確認された同サイズの河原石を敷き詰めた跡も、その後の時期に川が干上がるのを防ぐ祭祀を行った祭祀場と推定しています。(腰塚)



出土した井戸跡(井戸杵が見える)

連載 くまがやの古墳群

㊸ とうかん山古墳 - 江南台地最大規模の前方後円墳 -

とうかん山古墳は、大里地区、荒川右岸の江南台地東端に所在する古墳時代後期に造られた前方後円墳です。古墳が立地する台地は、標高2.4m前後を測り、すぐ北には荒川右岸の低地を臨み、前回紹介した甲山古墳から北へ約1kmの位置にあります。

とうかん山古墳は、全長74m、後円部径37m、高さ6.2m、前方部幅42m、高さ5.7mの規模で、江南台地に所在する前方後円墳では最大規模です。前方部の一部が民家によって削平を受けるなどしていますが、比較的遺存状況は良好です。

本墳は、正式な発掘調査が行われておらず、埋葬施設・周溝・出土遺物は不明ですが、古墳の平面形態や採取された円筒埴輪片から、6世紀後半の築造と推測されています。墳頂には、稻荷社(おとうか様)が鎮座することなどが、名称の由来と考えられます。なお、本墳は1989年に県指定史跡となっています。(吉野)



埼玉県指定史跡・とうかん山古墳(上が北)

◇源宗寺本堂保存修理事業の進捗について

令和3年6月に上棟式を迎えてから、約5か月が過ぎ、源宗寺本堂が完成に近づいています。新たな本堂には、旧本堂で使用されていた鬼瓦を一部再利用し、屋根には鴟尾や二の鬼を加えることで、旧本堂の特徴を生かしながら迫力のある立派な仕上がりとなっています。12月下旬には、落慶式と一般公開の予定です。また、現地では、次なる課題である市指定文化財「木彫大仏坐像（平戸の大仏）」の保存修理が8月下旬からスタートしています。資金調達のため行われたクラウドファンディングも、多くの方のご協力により目標金額を達成しました。（山川愛）



◇天然記念物制度100周年記念文化財講演会

8月25日、埼玉県立歴史と民俗の博物館を会場に、国内の天然記念物制度が創設されてから100周年を記念した文化財講演会が開催されました。本市では、連続講座の一つとして、「元荒川ムサシトミヨ生息地の保護と展望—地域指定と種の確定をめぐる—」をテーマに、ムサシトミヨの生態と文化財指定の枠組みなどについて解説しました。ムサシトミヨの遺伝子分析が進む中で、新たな種別法が提案されている状況など、最新の研究に関する多様な成果と情報を提供する機会となりました。（山下）



◇長島記念館で渋沢栄一をテーマとした講演会開催

6月26日、長島記念館（熊谷市小八林）においてNHK大河ドラマ「青天を衝け」などで注目を集めている「渋沢栄一」に関連した記念講演会を開催しました。本年は、特別公開講演会「愛染堂・尾高惇忠奉納額」、講演会「妻沼聖天山と渋沢栄一」、講演会「根岸家と渋沢栄一の周辺」の開催など、熊谷と渋沢栄一の関連をテーマとした講座を企画しています。長島記念館では渋沢栄一が揮毫した書が展示されているほか、長島家当主の長島恭助が頭取を務めた埼玉銀行（現在の埼玉りそな銀行）は渋沢が開設した銀行組織が発祥となるなど、多様な関連があります。今回の講演会は、長島家と渋沢家の歴史的な結節点に焦点を当てる内容となりました。なお、講演会の様子はYouTubeで配信しています。（山川愛）



【文化財探訪 「坊っちゃん」先生の足跡】

夏目漱石の名作『坊っちゃん』。その主人公・坊っちゃんのモデルとされ、漱石の友人でもある弘中又一（1873-1938）は、熊谷の地で熊谷中学の数学教師として過ごしました。

愛媛県の松山中学校（現在の愛媛県立松山東高校）に勤務していた漱石は、時期を同じくして赴任してきた弘中と早々に意気投合し交友を深めます。1年後、2人はそれぞれ松山中学校を後にしますが、松山中学校で「ボンチ先生」の愛称で慕われた弘中の破天荒な性格とその実話体験をもとに、夏目漱石は小説『坊っちゃん』を執筆したのではないかと考えられています。

弘中は松山中学校などを経て、明治33年（1900）埼玉県尋常中学校第二分校（旧制熊谷中学：現在の熊谷高校）に着任しました。明治42年（1909）から大正8年（1919）までの約19年間を熊谷の地に身を置き、熊谷市宮町一丁目（現在のさいたま地方裁判所熊谷支部南側）の借家などで家族と共に暮らしました。

本年、弘中が熊谷に着任してから120周年を記念して、弘中が歩んだ熊谷市街地の名所を紹介するマップを含むリーフレットが作製されました。漱石の『坊っちゃん』先生旧居跡、熊谷聖パウロ教会、高城神社、千形神社、星川彫刻プロムナードなどを散策しながら、坊っちゃん先生が生きた時代に想いを馳せてみてはいかがでしょうか。新たな街の表情と出会うことができます。（山下）

坊っちゃん先生 ゆかりの地 MAP
—旧熊谷中学校と旧居跡周辺の名所をめぐる— 【埼玉県熊谷市編】

弘中又一（1873-1938）
小説『坊っちゃん』の主人公のモデルとされる弘中。漱石の友人でもあった。熊谷の地で熊谷中学の数学教師として過ごしました。明治33年から大正8年（1900-1919）年、熊谷市宮町一丁目に、熊谷市立熊谷中学校の数学教師として勤務した。熊谷市立熊谷中学校の数学教師として勤務した。熊谷市立熊谷中学校の数学教師として勤務した。

- ① 埼玉県立熊谷高等学校（旧制熊谷中学校）
熊谷市立熊谷中学校の前身。1900年に創立された。弘中が熊谷中学校の数学教師として勤務した。熊谷市立熊谷中学校の数学教師として勤務した。
- ② 熊谷聖パウロ教会
熊谷市立熊谷中学校の前身。1900年に創立された。弘中が熊谷中学校の数学教師として勤務した。熊谷市立熊谷中学校の数学教師として勤務した。
- ③ 高城神社
熊谷市立熊谷中学校の前身。1900年に創立された。弘中が熊谷中学校の数学教師として勤務した。熊谷市立熊谷中学校の数学教師として勤務した。
- ④ 千形神社
熊谷市立熊谷中学校の前身。1900年に創立された。弘中が熊谷中学校の数学教師として勤務した。熊谷市立熊谷中学校の数学教師として勤務した。
- ⑤ 星川彫刻プロムナード
熊谷市立熊谷中学校の前身。1900年に創立された。弘中が熊谷中学校の数学教師として勤務した。熊谷市立熊谷中学校の数学教師として勤務した。

新たな街の表情と出会うことができます。（山下）

文化財コラム 古代農村の風景—野原・丸山遺跡から—

市内には古代の地方役所であった幡羅（はら）郡の役所跡—幡羅官衙遺跡群—がみつかっています。地方政治の拠点として、租税の収納施設や政務機関、祭祀施設、市（いち）などが集中していたらしく、普通の集落とは異なり瓦葺の建物や板葺きの大型建物などが規則正しく整然と立ち並び、街路に区画され、「マチ」のような一角をしていたと考えられています。

一方、普通の集落に住む人々は、竪穴式で茅葺の建物などに生活し、田畑・山野の生業にいそむ「ムラ」の空間に暮らしていました。このような集落は市内の各所から発見されていますが、やや異なった集落跡もみつかっています。野原地区に所在する「丸山遺跡」は9世紀前半から後半にかけて営まれた遺跡で、和田川に南面した台地上に広がっていました（右写真）。発掘調査により、



竪穴住居跡とともに、倉庫と推定される整然と並んだ「掘立柱建物」12棟などが、広場を囲むように発見されました。このような建物配置はミニ官衙と呼ぶにふさわしく、役所的な配置に倣っているところから郡の下部に置かれた「里（郷）」の共同施設、あるいは地域開発を主導した有力者の居宅ではないかと考えています。丸山遺跡は、古代集落の多様性を示す例として貴重であり、今後調査機会が増えることにより、大里郡または男衾郡のいずれに属していたかなど、地域の歴史がより詳細に解き明かされていくものと思います。（新井）

マニアックな文化財メモ

星溪園積翠閣ギャラリー展「渋沢栄一と熊谷を結ぶ書の系譜」

近代日本経済を支えた渋沢栄一は、後に熊谷市名勝「星溪園」となった竹井家別邸を訪れています。大河ドラマをはじめ渋沢栄一や義兄の尾高惇忠、渋沢家に注目が集まる中、熊谷にゆかりのある作品の特別展示を星溪園積翠閣ギャラリーにおいて開催しています。

渋沢栄一揮毫額「克」、尾高惇忠筆奉納額、渋沢元治による栄一の作詩を揮毫した掛軸、渋沢栄一と青年期から交流があった竹井澹如のパリ万国博覧会出品証を展示しています。会期は令和4年2月15日までです。渋沢栄一が散策した地に想いを馳せながら、渋沢と熊谷を結ぶ貴重な資料をご参照いただくと幸いです。

併せて、国選定保存技術保持者・花輪滋實氏が製作した「軸首」や工芸作品も協賛展示しています。（山川愛）



編集後記

先日、荻野吟子が生まれた俵瀬地区や、生家の長屋門が移築された群馬県千代田町の光恩寺などをめぐる「荻野吟子探検隊」が行われ、熊谷市立小中学校の児童生徒、保護者の皆様に参加し、渡し舟で利根川を渡りました。参加者からは「熊谷にいながら、このような経験ができるとは思わなかった」との感想がありました。コロナ禍の影響を受け、限られた場所で過ごすことが増える中、身近な場所には、実は「未知の世界」があることを実感できる機会が増えているのかも知れません。日常生活の中で今まで気づくことが少なかった、文化や歴史、風景や自然に触れながら、フォトジェニックなワンシーンを体験してみたいはいかがでしょうか。（山下）



発行：令和3年11月23日（2021/11/23）

熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係）

〒360-0107 熊谷市千代329番地

電話：048-536-5062 FAX：048-536-4575 メール：c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

HP：「熊谷デジタルミュージアム」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm>

ブログ「熊谷市文化財日記」、熊谷市観光・文化財ナビゲーションアプリ「くまここ」更新中